参加者からのコメント

フォーラム終了後に、66 名の方々からコメントをいただきました。この場をもって御礼申し上げます。

1. Excellent range of speakers and perspectives. I found it very interesting to hear from people affected by donor conception from different countries- particularly learning about the Japanese experience. （From Australia）

2. 国内外の当事者の方の思い、そして法制度を含めた制度の構築に長年携わられてきた方の助言をお伺いでき、非常に参考になりました。初めて気づかされる点も多かったですし、昨年成立した法律に関する当事者の方の意見も伺えてよかったです。非常に充実した内容で、時間があっという間でした。

3. 加藤さんのお話はニュースで読んだことがありましたが、複数の方から詳しく伺うことができました。ありがとうございました。自分の遺伝子を持った子どもが欲しいという気持ちはわからなくはないですが、それなら、子どもが自分の出自を知りたい気持ちも同等にある＝精子や卵子提供者の情報も同等に示されるべきと思いました。不妊治療の中に、養子縁組や子育てに関わる選択肢が幅広くあるといいなと思います。

4. 本日は、大変貴重な機会を誠にありがとうございました。 「子ども」の権利というよりも1人の人（大人）が長く幸せに生きていくための権利であるという石塚さんのお話は、全くその通りだと思いました。「子ども」というと、たちまちその主体性が軽んじられてしまう雰囲気が日本にはあるような気がします。 当事者の方々の思いが、国や文化を超えたものであることを改めて知ることができました。Leenさんとドナーの方の幼少期のお写真が瓜二つだったことに、私まで胸がいっぱいになる思いでした。 加藤さん、お子様のお誕生、誠におめでとうございます。「祖父を知らない子」とおっしゃられていた通り、世代を超えた長期的な問題だと思います。お父様になられてのお考えやお気持ちも、またおうかがいできる機会がありましたらと思いました。本日はコロナ禍の大変なお仕事の中、誠にありがとうございました。 また、当事者の方にとっては同じ立場の方との交流が何よりの支えとなること、福祉やカウンセラーには当事者の方々をつなぐことが期待されるというお話は、大変勉強になりました。専門家といっても当事者でなければ本当には分からないということは、常に肝に銘じておくべきことと再認識いたしました。 形式面では、オンライン開催でなければ参加できなかったので、大変助かりました。またこのような機会があれば参加させていただきたいです。ありがとうございました。

5. 私は子どもの生活に関心があるのですが、DIについてはあまり馴染みがなったため、問題や現

状を知ることができて良かったです。自分が将来子どもが欲しくてもできない状況になってしまったとき、また周りにそういう方がいたとき、産まれてくる子どものことを第一に考えて行動するべきだし、またそう行動できる世の中であるべきだと考えさせられました。 登壇者の皆さんはご自身の体験談をお話して下さり本当にありがとうございました。またこのような機会を下さりありがとうございました。

6. 登壇者のさまざまなご経験からのお話はとても参考になりました。

7. まず、本日のフォーラムに登壇された当事者の方々、研究者の方々、このような貴重な機会を設けてくださり感謝いたします。ありがとうございました。川上未映子さんが書かれた「夏物語」という小説をきっかけに、「産む/産まれる」ということをより深く考えるようになりました。その人自身の出自をどのように捉えるかはその人自身の自由ですが、出自を知ることは大切な権利であると考えます。わたし自身、「妊娠出産という行為は親のエゴ」と思ってしまうところがあり、このフォーラムを聴いた後もその想いは変わっていません。この世に生まれてくることを主体的に選択してきた人はいないという事実を踏まえ、DIにかかわる諸問題について、自分事として考えていきたいと思いました。

8. 日本は法制化が十分進んでおらず、社会的な議論が幅広い場で起こっている問題でないため、取り組みが進んでいる国と比較して、現状を知ることができる大変貴重な機会となりました。当事者だからこそ語れることもあり、話には重みがあり、今後このフォーラム参加者としてこの問題にどう向き合っていくべきかこれまで以上に真剣に考えていくべきだと気が引き締まる思いがしました。 最後に1点質問を述べさせてください。私は現在大学3年で、児童学の研究を大学で行っています。主に取り扱っているのは子どもの養育環境、家族形態に関してです。そこで質問です。今回幼少時から両親と容姿や特性の違いに疑問を抱いていた方が多いと聞きました。今後早い段階から出自に関して法整備・社会的世論が高まり、認知されるようになることを見据えた上で、幼い子供に伝える際に意識すべきこと、子供に伝える上で役立つ資料などありましたら、教えていただけると幸いです。特にレズビアンなど同性カップルでこの決断をされる方が多いとリーンさんのお話を聞いて知ることができたため、そうした同性カップルの子どもに対して自分たちの出自を伝える媒介(絵本や記事など) で参考になれるもの、効果が見込めるものがありましたら教えていただきたいです。また、当事者の方にとって幼いころにこの事実を知っていたらどのように感じるか、大人の立場になってどのように子供の頃仮に伝えられていたら伝えてほしかったか（どんな資料を介して、どこで）なども、DI家族の抱える悩み軽減につながる1歩としてご意見いただけますと幸いです。 今回は大変貴重な学びを受けられたこと感謝しております。開催していただき、ありがとうございました。

→　日本には同性カップルの間にDIで生まれた子のための絵本はまだあまりないと思いますが、以下が参考になるかもしれません。『わたしたちのかぞくのものがたり：AIDで生まれたお子さんのいるレズビアン家族のための本』（e-book ペトラ・ソーン& リサ・グリーン著、仙波

由加里訳、FamART Verlag） https://www.famart.de/shop/kinderbuch-ebuch-japanisch/%e3%82%8f%e3%81%9f%e3%81%97%e3%81%9f%e3%81%a1%e3%81%ae%e3%81%8b%e3%81%9e%e3%81%8f%e3%81%ae%e3%82%82%e3%81%ae%e3%81%8c%e3%81%9f%e3%82%8a-ebook/
子どもへの絵本のあとに、レズビアンの両親の経験談も入っています。（仙波）

9. 難しい言葉や聞き取りづらいところもありましたが、DIによって生まれた方やケンさんの意見を聞けた事は貴重でした。 以前からDIで生まれた方のインタビューなどに触れ、小さい時に自然な形で告知を受けている人ほど、両親と良い関係になっており、その後の本人自身の人生も愛と自信に裏打ちされたものになっていると思っていましたが、本日も告知の重要性を感じました。

10. 大変勉強になった。当事者4名のお話はとても印象深く、生殖医療の法制化について、当事者の視点から検討されるべきことと改めて認識した。

11. DIで生まれた当事者の皆さんが自分たちの権利を得るために、日本だけでなく海外でも想像以上に厳しい現実に直面しておられていることをあらためて認識しました。生涯の課題になることを医療者は深く心に刻んで治療やケアにあたらなければならないと思います。

12. 当事者の方の思いを聞くことはなかなかないので、とてもよい機会になりました。ありがとうございました。 大人になってから知ったために、「騙されていた」ような気持ちになったり、自分の存在が否定されていたような気持ちになったこともわかりつつ、小さい子どもに伝えることの難しさや、それにより父子関係に亀裂が生じたらどうしようという思いもあり、親にとって言いだすタイミングが難しく、「知らなくていいこと」にしてしまっていた親の気持ちもわかる気がしました。また、今の時代、知る権利が必要と思いつつも、一方で、血のつながりがなくても育ててくれた父が「実父」でよいのではないか、血のつながりだけが家族ではないのではないか、などの思いもまだ残っています。自分が当事者だったら、何を望んだかわかりませんが、様々なことを考えるとてもよい機会となりました。

13. 本日は貴重なお話をありがとうございました。 DIを検討している夫婦なのですが、日本の状況だけでなく他国の現在の状況も知ることができてとても参考になりました。子供への告知についてKen先生の「家族形成の歴史を語る」という言葉がとても響きました。本日はありがとうございました。

14. なかなか聞く機会のないお話を伺うことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。人権という面で、これは幼い子どもの権利の話だけでなく、人生の先々まで関わることであると認識を改めました。とても重要な点だと思いました。また、アイデンティティの問題も重要ですね。ドナーの匿名性については、私は廃止した方が良いと考えています。提供

者も、提供することの意義をきちんと考えて、関わるべきだと思います。日本の生殖医療が、子どもの数を増やすため、という数の議論に流れるのは、よくないことだと思います。

15. 精子提供を受け生まれた方々が、現行の不十分な法律や制度によって様々に悩みを抱えていることを知りました。今まで知識としては「精子提供」やその課題について知っていたのですが、当事者の方々のお話を聞くことで自分の視界が狭かったことがわかりました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

16. 海外と日本の精子、卵子提供についての温度差や国民性の違いについて非常に勉強になりました。ダニエルズ先生のお話は私自身も卵子提供の自助グループを運営しておりますので、とても勉強になりました。

17. 私は、DIを実施している医療機関でカウンセリングを担当している臨床心理士です。DIを希望されるカップルとお話しながら、この治療は本当に生まれてくる子どもとカップルの幸せにつながるのか、日々葛藤しています。今回は国内外の当事者の方から貴重なお話を伺うことができ、様々なことを考えることができました。ありがとうございました。日本だけが遅れを取っているというよりも、世界のそれぞれの地域で、よりより在り方を模索中の治療法なのだと感じました。日本では社会的認知度が低い治療ですが、当事者の方達がこんなにも悩んで葛藤していることも含め、正しく知られてほしいと思いました。従事者として発信していかなければならないと考え、改めて背筋が伸びました。ありがとうございました。

18. 当事者の方の貴重な体験のお話が聞けてよかったと思います。なぜ親が隠そうとするのか、隠さなければならないのかが、不妊治療技術よりも重要な議論のテーマだと思いました。

19. 当事者ならではの貴重なお話を伺うことができ、非常に有益でした。特に、リーンさんと石塚さんのご経験には共通点が多々あり、この問題の普遍性を感じると共に、生まれた子どものジェンダーによっても違いがあるのかなと思いました。個人的には、加藤さんが「お父さん」になられたことを知り、嬉しい気持ちになりました。

20. 大変興味深いフォーラムをありがとうございました。DIにさまざまな立場から関与する方々のお話をきくことができ大変勉強になりました。とりわけDIを通じて生まれた方々の率直なご意見をお聞きすることができる貴重な機会だったと思います。質問セッションにおいて、さまざまなお立場からの質問と回答をお聞きしたかったのですが、やや専門的にDIに携わっている方々からの質問がとりあげられるのが多かったように思いました。DIに関与する（あるいはこれからしようとしている）夫婦の疑問なども別途回答していただけると大変うれしく思います。

21. 貴重なお話をありがとうございました。都合で開始後40分ほどからの視聴でした。ちょうど

Leenさんがお話されているところでした。様々な葛藤を当事者（DIで生まれた人）は抱えていることが伝わってきました。何事も当事者でなければわかりえないこともあると常々考えていましたが、この課題についてもそうなのだと思いました。加藤さんら日本の当事者の課題は日本における多様性や子どもの人権についての、また、大人も含めた人権意識の未熟さ、土壌ができていないことに言及されており、考えさせられました。友人には性的少数者（レズビアンカップルや性別不合〈ftmの異性愛者〉が精子提供を受け、子を授かり、幸せに暮らしています。精子提供者をオープンにしている方もいれば、あえてこちらからは聞かずにいる方もいます(尋ねれば教えてくれるだろうけれど、躊躇う自分がいます）。同性婚が認められていない為に法的な結婚を望んでいるにもかかわらず、多重に法から置いてきぼりにされている感もあります。様々な議論が今後もあるでしょうけれど、ニーズはあり、家族が幸せであること、子どもが幸せであることを決してeasyではない人生ではないとしても、当事者ありきのベストな法整備と社会的フォロー、スティグマの除去を考えます。私の子も性別不合（≒性別違和、≒性同一性障害）です。カミングアウト時に「子どもは持てない、ごめんね」と言っていました。それは本人が決めることだから、親の私に謝ることではない、と思い、伝えながらも、性的指向がどうあれ、社会的な条件やケースの少なさからそう思うことも想像できます。将来展望が描きにくく、選択肢が限られるのは不平等ではないかと思っています。 政治家による「生産性」のあるなしで人間性を図られることはあってはならないですし、優生思想など論外ですが、生殖についての、また性についてのあらゆる差別は根っこで繋がっている印象も持っています。子を持つ選択、持たない選択が国家によって左右されたり、知る権利を侵害されることに違和感があります。 まとまりませんが、このような機会を一般にも開放してくださり感謝いたします。

22. 大変貴重な勉強の機会をいただきありがとうございました。精子提供、卵子提供の治療前カウンセリングにかかわっています。当事者の皆様のお話を伺って、改めて早期告知は必須と感じました。生殖補助医療は時間的な制約が大きく、提供治療を選択する段階では、落ち着いて熟慮するのは難しいことが多いと感じます。生殖補助医療のプロセスに応じた標準的な心理教育、情報提供、喪失体験のサポート、夫婦及び家族関係のサポートなど、包括的な支援整備が必要と感じます。

23. 素晴らしいイベントを企画していただき、ありがとうございました。当事者の方々のご登壇は興味深いものでした。最後のほうの質問で、「親子の多様性」について皆様のお答えをぜひお聞きしたかったと思っています。今、芥川賞作家の川上未映子『夏物語』が広く海外でも読まれています。自分だけの子を産みたい／持ちたいとして知人の精子提供を受けてシングルマザーを選択する主人公ですが、私自身は感情移入できずにいます。持ちたいと願う親に権利は認められるのか、産まれてくる子の権利とどのように交渉するのか。そもそもそういうことを考える女性は身勝手なのか、ということです。今日のご登壇者の皆さんのお話しでは、異性の両親がそろった家族というものが大前提としてあったように感じられ、違和感があったことも確かです。里親や里子はよくあることととして受け止められていた時代が日本にはありましたので。

24. 初めて当事者の方の経験や意見を、生の声で聴くことができ、とても貴重な時間となりました。そして、改めて社会の問題として考えるきっかけともなり、参加することができて良かったと思っています。

25. 僕はGID(性同一性障害)当事者で戸籍を変え、パートナーとの子どもを…という延長で、日本でAIDが認められ始めた頃から関心を持っています。今回、出自の特例法がそんなにアッサリ決まっていたのかと驚きました。それにも関わらず「知る権利」に関しては腰が重たい、という性質(?)を少し感じました。特例法の発表を見た時、提供者が介在している事を透明化、匿名化したまま夫婦の子と法的に(僕にとってははそれは曖昧に)残すことについて、疑問が残ったのを思い出しました。出自を知る権利はつまるところ、子どもの権利でもあると感じます。自分のルーツを知るというのはアイデンティティに関わることだし、自己形成をする上でも必要な過程だと思います。家族の形や構成は多様であるものだと思うし、限定的になるものではないと思います、特にこれからの時代は。新しい時代を感じられるフォーラムでした。これからもご活動、興味深く拝見していきます。石塚さんの「夫婦も子どもも提供者も、みんなが幸せになるように(意訳)」という言葉に励まされました。本当に、そういうものが理想であるべきで、そんな風に変わっていくといいなと思いながら、陰ながら身の回りから少しずつ声をかけていこうと思います

26. 様々な観点から話を聞くことができよかった。私は川上未映子著の「夏物語」というDIにまつわる本を読み、色々考えるところがあり、当事者の話を聞きたいと思い参加した。はじめ、私は、提供者を知りたいという思いに疑問があった、なぜなら、私は血筋より育ててくれた人々がいることが重要ではないかと思っていたためだ。しかし、話を聞いていると、当事者の方の中には育ててくれた人々を大切に思う上で、提供者を知りたいのだということが分かった。また、石塚さんの話では、人から産まれたということを確かめたいとあり、疑問はなくなった。加えて、石塚さんの法案に関する話では、不妊治療によって命が軽くなるという意見に対し、法案以前に、現在ではSNS上で提供が行われているという事実を認めることが大事で、法案が様々な事柄に対処できる十分な内容になれば、不妊治療に対するそのような考えもなくなり、悩む人（当事者や、当事者の育ての親の「隠さねばならない」という負担）も減るのでないかと思った。また、質問に対し、石塚さんが、日本では子供の権利が弱いということに強く共感した。

27. DIで出生した当事者の声を聞けて良かったです。一方で、男性不妊に悩むカップルの立場も考慮することも大事だと考えます。

28. 育ての父親との関係の再構築はどうだったかや、母親の精神安定は真実告知のその後どうだったかなども知りたいと思いました。

29. 特別養子縁組の「真実告知」の参考にしたいと思い、聴かせていただきました。子どもの立場からの意見は大変勉強になりました。「望まない妊娠などで匿名出産を希望する母」と「出自を知りたい子」の権利の対立に対して、支援者がどのように向き合うことが出来るのかの検討の一つにさせていただきたいと考えています。

30. 非常に有意義でした。

31. ありがとうございました。大変勉強になりました。

32. 大変素晴らしいフォーラム、ありがとうございました。初めて、世界各国のDI当事者の方々のお話を聞くことができました。当事者の方々が抱える葛藤、日本の抱えている問題点などについて、よく理解することができました。ありがとうございました。

33. まずはこのような企画、運営をしていただいた関係者の皆さま、大変お疲れ様でした。通訳のタイムラグも全くなくてとても聞きやすかったですし、時間の違う海外とつながっている感もなくて、とても素晴らしい進行でした。石塚さんが最後におっしゃった「私たちは子供ではなく大人ですが、こんな大人になってもまだ・・」の言葉、だから今変えなければ、次の世代も繰り返してしまいますよね。不妊治療からAIDや非配に進むとき、提供を受けてでも「親になる覚悟」について夫婦で徹底した話し合いや、子供が生まれた後も夫婦、子供、家族としての包括的なサポートは必須です。国内で第三者の提供の門戸が広がり、無精子症の方々が治療を受けて子供を持つ可能性が広がっていることについては、石塚さんや加藤さんたちDOGの方々の生の声をきちんとお聞きし、学ぶべきを学んでから、体制を整えて実施していかねばなりません。国としても色々の立場の方が法整備に関わっていると思いますが、システムを作っていくときは、やはり当事者や現場で当事者に関わっている者たちの意見にもぜひ耳を傾けて欲しく思います。「カウンセラーや医療者のサポートも時と場合に応じてで、やはり当事者のピアカウンセリングの部分の方が大きい」というのは、全くその通りだと思います。いい学びをいただきました。明日は早速院内のスタッフと患者会の方々に報告レポートをしたいと思います。ありがとうございました。

34. 出自を知る権利をめぐる議論で、ドナーの匿名性の廃止を認めた場合に「提供者が少なくなる」「親子関係に損失が生じる」といった反対意見が必ず出ますが、今回のフォーラムでは海外でも同様の反発があり、その上でそこを乗り越えて制度化につながっていることが分かり、とても興味深かったです。海外の当事者のお話を伺う機会は初めてで、大変参考になりました。

35. たいへん勉強になりました。リーンさんのお話は、痛みと解放感がよく伝わって、とてもよかったです。

36. 日本の現状と、何歩も先をゆく国の理想の国の姿を分かりやすく当事者の声を通して聞かせて下さりありがとうございました。印象的だったことはカウンセラーとのやり取りではなく、当事者同士の繋がりとやり取りに一番救われるという言葉です。私は親の立場ですが、告知して育てる親同士の繋がりが同世代では皆無なので、カウンセリングを受けて精神的に立ち直りたいと思っています。ですが、適切な場所が日本にはないことも判っているので、行き詰まりを感じています。出自を知る権利の実現も叶えたいと願います。

37. AIDで生まれた子の権利を親として守っていきたい。そのために自分ができることを明確にしていきたいと思い参加させていただきました。海外の状況も知ることができて非常に良かったです。またこのような機会を設けていただきたいです。

38. DIで生まれた子どもの出自を知る権利の重要性を再認識した。将来、子どもがドナー情報を知りたい言った時に開示できるよう今最善を尽くすべきだと感じた。他の国がどのように出自の権利が進んでいるのかも知ることができた。もっと子どもに対してのケア、夫婦のケアが必要だということもわかった。もっともっとこの治療について勉強したいと思った。

39. 勉強になりました。

40. 今まで提供精子で生まれた人に出会ったことも、出自を知ることの重要性について考えたこともなかったため、今日のフォーラムで、沢山のことを学ばせていただきました。日本で、出自を知ることの権利が認められない原因として「親目線で考えることが多く、こどもに焦点があたっていない」ことが挙げられていました。これはこの問題だけでなく、多くのことに通じると思います。私自身は提供精子で生まれていませんが、学ぶことはできるため、「知る権利」が認められる社会づくりに少しでも貢献することができるよう、今後理解を深めていきたいです。

41. 不妊治療クリニックにて心理カウンセリングをしております。提供配偶子による不妊治療を検討する患者さんの相談も受けるため、当事者の皆さんとDaniels先生のお話は今後の臨床活動に大変役立つと思いました。生まれてくる子ども権利や視点を、患者さんにどのように伝えるかのヒントを多くいただけたと思います。大変有意義な講義を開催していただき、どうもあ

りがとうございました。

42. ケン・ダニエルズさんから直接お話を伺うことができ、貴重な機会をありがとうございます。当事者のお話はすまいる親の会他、書籍等で伺っていた内容と大きな違いはないと感じました。AIDで子を持った1人の親として、告知はすでに行っておりますし、今日伺った知りたいときに知りたい情報を知れる環境づくりをしっかり行っていきたいと思います。 AID当事者の方で声をあげられている方々が、告知をされていない場合が多く、AIDに否定的な言葉が多い点は、こういうイベントで毎回辛いです。告知をされた当事者のお話も、いつか聞いてみたいです。AID出生児の権利は勿論ですが、1人の女として、子どもを産みたい権利が無精子症だと一方的に奪われてしまうことにも、AIDの検討前にカウンセリングが必要だと感じています。

43. 今まで自分の一部が欠けている欠陥人間のように感じていましたか、同じような人が世界中にいらっしゃり、提供者や兄弟に会う権利が法的に整っている国も沢山あることに希望を感じました。

44. 大変勉強になりました。途中参加でしたので、Leenさんのご発表から伺いました。私自身はDIの当事者ではありませんが、ご発表からそれぞれの発表者の方がこのChallengesに向き合い続けていること、日本では変革を求める「声」が小さい現状を知ることができました。私自身、人々の語りとアイデンティティに向き合い続けています。みなさんの語りから、「語ること」を再考する機会ともなりました。ありがとうございました。

45. 当事者の方の思いや、法整備への課題等を理解するためのよい機会になりました。ありがとうございました。

46. 実際に生まれた子ども達の抱える問題や法整備のことなど、知らなかった内容でした。お話をうかがい、知る権利はとても大切な権利であり、前向きに取り組むべき課題だということがわかりました。子どもの権利も含め、今後も注目していきたいと考えています。

47. 不妊治療から派生する様々な問題のうち、長くタブー視されてきているAIDに関する生まれた子ども側の生の声を聴く機会を提供してくださりありがとうございました。

48. 加藤さんには、前にお茶大の研究会の時にお会いしてお話をお聞きしたことがありましたが、今回は、各方面からのスピーカーのご参加で、大変有意義な会でした。特にLeenさん、お体のご調子がすぐれないご様子。DIで生まれたことによって、その精神的ダメージが、生命存在の危機にまでつながるというお話を、よくぞ、このセミナーでお教えくださいました。日本では、なかなかDIのグループへの参加表明がないということ。単に文化の違いと考えてよいのかどうか。何度も、Leenさんのパワーポイントに、shameという言葉が出てきました。生まれてきた子どもが、shame などという感情を持たないで済むような社会であってほしいと願わずにい

られません。その方法を選んだ両親も悪い事をしたのではありませんし、子どもも「望まれて」生れてきたことには変わりはありませんから。 加藤先生、血縁関係はなくとも、御父上様のお写真、公開して下さり有難うございました。幸せな時間があったこと、少しく心落ち着きました。コロナ感染症爆発でお大変なところ、有難うございました。 皆様、お元気にてお過ごしくださいませ。

49. ベルギーやオーストラリアの状況なども知ることができ、参考になりました。質問への回答もありがとうございます。清水さんが当事者のご夫婦やその子供たちへの支援をしたり、親の会などを開いていることは存じております。しかし、そうした会があることをお知らせしても、様々な考えや事情から親の会に参加できない・しないご夫婦も多かったことから、公的な機関ができた際に、当事者夫婦への支援が組み込まれればいいのではないかと考えました。ケン・ダニエルズさんの回答を参考に、当事者夫婦をつなぐ仕組みやかかわりが作れないか、考えていきたいと思います。ありがとうございました。

50. 哲学を専攻する大学生です。私は精子提供等についてまだ十分に知識を持たない状態での参加でしたが、日本及びオーストラリアやベルギーの歴史や現状に関わるお話を聞くことができ、たいへん貴重な時間でした。すべての子を持ちたい人と子どもたちの幸福につながるような運用がなされるべきであるし、そうできないならば技術を利用する必要はないと感じました。子をもうけるとはどういうことなのか、学び考えていきたいと思います。

51. DIで生まれた方当事者の方のお話を聴ける大変貴重なフォーラムだったと思います。不妊治療施設に10年以上勤務し、提供精子、提供卵子を使用しての治療を希望される方には、出自を知る権利について伝えた上で治療を受けるよう勧めておりました。実際にはどこまで実施されているのか、そのカップルが治療を受けるところ、その後までのサポートは出来ていないので、私の言葉が親となる当事者にどこまで伝わったのか分かりませんが、これからも機会があれば、当事者の思いとともに伝えていきたいと思います。 ベルギーでは、シングルの方やレズビアンカップルの方も対象となることを知り、今の日本のSNS利用で精子提供を受ける危険な状況よりは、良い状況だと感じました。 今回、ご登壇された方は、ある程度大きくなった時点で事実を知らされ、そこから本当の親を探すという行動をおこされたと話されていたと記憶していますが、実際の育てた親御さんの気持ちを考えると、かなり寂しいお気持ちだったのではないかと察します。ダニエルｽﾞ先生のお話から、家族になるための治療だとすると、早い時期からきちんと伝えることで、その家族に関わる全ての方がハッピーになれるのではないかと思い、聴いておりました。 貴重なお話、ありがとうございました。

52. 本日はありがとうございました。諸先生方、スタッフの皆様にお礼を申し上げます。日本で加藤先生と石塚先生のお話を拝聴する機会は多々あります。しかし、オーストラリアのDI出生者さん、ベルギーのDI出生者さんからお話を拝聴できる機会は、貴重な経験でした。Leen

Bastiaansenさんの人生年表は、非常に分かりやすかったです。私も勉強になりました。 加藤先生の情報からでは、日本でDIで妊娠される方が、現在でも年間200人くらい、いらっしゃるのですね。当分の間、精子提供は日本で消滅しない技術だと思います。今後も出自を知る権利を真剣に考えていく必要があると思いました。

53. それぞれの国の現状がよくわかり、勉強になりました。 私も出自を知る権利を保障することが必要だと考えております。フォーラムで印象に残ったのは、「秘密にされるということは、恥ずかしいこと、後ろめたいことと親が考えているのではないか」という点でした。もちろん不妊という事実はそれ自体がセンシティヴなもので、他人に知られたいものではありません。子供は当事者なのできちんと告知すべきだと思いますが、ただその時、子供が不用意に周りの人に言ってしまって、夫婦の不妊が知られたり、あるいは子供自身が不寛容な社会において陰口をたたかれたりいじめられたりするのではないか、という不安が親側にあることも理解できます。そうすると、今度は親が子供に対して「秘密にしなさい」という必要が出てきて、それはやはり子供に後ろめたいこと、恥ずかしいことという印象を与えるのではないかと思い、難しいなと思いました。 オーストラリアでは出生証明書の訂正まで可能だということでしたが、日本においては現実的ではないと思います。また、そこを訂正した場合、育ての父の扱いはどうなるのか、今度は育ての父が父であることを否定されたように思い、また何らかの権利主張が出てくるのではないかと疑問に思いました。 いろいろ考えることも疑問も多かったですが、大変ためになるフォーラムでした。

54. 各国の当事者の声が聞けてよかったです。日本の事情は本やマスメディアに出ていますが、当事者の方々のお話は本当に苦しいお気持ちがわかって、心が痛いです。

55. 皆さんから聞いたことすべて、とても参考になりました。貴重なお話、ありがとうございました。

56. オンラインだからこそ開催できたと思います。今後の日本の法制化につなげていきたい。

57. AIDについては聞いたことがある程度で、具体的に当時者の方がどのような問題を抱えているについては初めて知りました。私自身はAIDに肯定的でしたが、今回のお話を聞いて十分なサポートやケアが整備されていないと知り、安易に肯定できないと思いました。海外と日本の事例を比較できる内容であったことも良かったです。講演中に、登壇者の方の接続トラブルや音声トラブルがあったことが少し気になりましたが、全体としてはとても勉強になる内容でした。また参加したいです。

58. 当事者の方々の声を直接聞かせて頂き感謝しています。以前、すまいる親の会で石塚さんの講演を聞き、提供精子での治療を始める前から告知の大切さを認識することができたので、我が家では子どもが１歳の時から少しずつ告知を行っています。今回のフォーラムでは「家族がどのように形成されたのかという視点で話す。子供だけが疎外されないように。」と言ったお

話を聞けて、今後の告知の仕方について改めて考える機会になりました。 また、日本での法整備が進んでいない現状についても考えさせられました。今後、法制化の際には、子供が出自を知る権利が保障されると共に、精子提供者が親としての義務を負わされないこと、精子提供者が親であることを主張できないこと(提供された夫婦のみが親になれること)、一人の提供者が提供できる人数(近親婚をできる限り回避するために)、などに関しても明文化されると良いと思います。

59. 複数の国の生まれた当事者の話が聞けてとてもよかった。ベルギーのリーンさんの「提供者と会ったが、新たな複雑な思いが起こった。試験管の中で捨てられたのでは・・・」という言葉、私も生まれた当事者で、提供者は知っていますが、さまざまな複雑な思いがあり、とても共感しました。

60. DIで生まれた方の苦悩（提供者が判明し、面会が実現した場合でも続く苦悩）ととそうしたことへの対応について、諸外国の現状がよくわかりました。ケン・ダニエルズ先生には、ニュージーランドの現地調査で大変お世話になりましたので、久しぶりにお顔を拝見できてうれしく思いました。

61. 非常に良かったです。IDのこととレズビアンカップルおよびシングルマザーの問題が発見でした。おそらく、このことも、日本で同性婚を認めない理由なのでしょう。それは、根底では、ドナー情報の開示に反対している方々と同じでしょう。現状を変えたくない。時代や科学技術等が変化するのに、それでよいのかと、日本の将来を考えるとき、絶望的な気持ちになりました。

62. とても興味深い内容でした。親の意向、子の出自を知る権利、提供者のプライバシーなどの様々な問題があることが分かりました。これ以上自分の出自について悩む子どもが増えないように、法整備が進むことを望みます。本日は貴重なお話をお聞かせくださいまして、ありがとうございました。

63. DIで生まれた方の話を初めて聞く機会となり、本当に多くの葛藤があるということを知りました。知る権利については同感なのですが、知った先に待ち受けているまた新たな課題というのに対して、どのようにケアしていくのか、そこもこれから議論が必要になってくるのだということが分かりました。ありがとうございました。

64. 各国の当事者の方の生の声を聞かせて頂き、大変貴重な経験となりました。遺伝的な父と会えた時のお話やその後の複雑な思いなど深く心に残りました。日本でも同じ経験をした方々との出会いの場を提供できるような支援ができるようになることを期待したいと思いました。

65. 色々と参考になりありがとうございました。世の中の流れ、アフターコロナなどを通してアプローチの仕方を試行錯誤する必要があるかもしれません。個人的な感情から後世に形あるものとして残せるとよいと思いました。

66. 実際にDIで生まれた当事者の方のお話を聞く機会は初めてだったので、大変参考になった。